

## 住宅と階段 その2

## Vol. 13

P

## 第13号のポイント

1. 曲線のある木製階段は温もりがありエレガント。
2. 踏板が浮遊したデザインの階段もスウェーデンでは普通。
3. スウェーデンの階段は構造とデザインが融合した芸術品。

?

## 筆者プロフィール

金井田晃央(かないだあきお)  
 1975年 群馬県生まれ  
 日本大学大学院(建築・構造)を卒業後、スウェーデンへ渡る。  
 スウェーデンで住宅・建材の輸出マネージャーを10年間務める。  
 河本工業の次世代型住宅である“Komoto Hus”(河本ヒュース)の開発メンバーに携わる一人。  
 スウェーデン住宅・建材・家具等の輸入手配を主に担当している。  
 筆者ホームページ：  
<http://mala-gruppen.com>



北欧デザインのスウェーデン木製階段

Hejsan! 今回は二つの階段デザインをご紹介します。まず一つ目は、ささら桁に踏板を載せた階段で、最も一般的なデザインです。ささら桁とは、階段の両側にある厚い板、つまりフレームのことです。踏板は、その名の通り、足で踏むところの板で、壇状になっている板のことです。

通常の階段は、このささら桁を主体構造として階段を支えています。これに踏板を載せ、そして手すりも固定しています。構造的には単純ですが、ささら桁を直線ではなく、曲線にすることで、全体のデザインがとてもエレガントになります。どことなく温もりを感じるのは、階段の素材が木であるから…。最も使われている樹種はパイン材(松)ですが、白樺やブナ材、オーク、ウォールナット、マホガニーなどインテリアに合わせて使われる樹種と塗装(色)が組み合わされています。

そして、二つ目のデザインは、踏板が浮遊している階段です! その優雅さにも圧倒されてしまいますが、驚くのは、この階段の構造がどうなっているのか?…ということです。実はこの階段、ささら桁がなく、手すりを厚い板にして主体構造としてしまっているのです。そしてなんと、スチール製の手すり子で踏板を吊っているではないですか! まさに構造とデザインが融合した芸術品と言えるでしょう。

踏板が浮遊した階段、なんとも不思議ですが、こんな階段が、一般の住宅で普通に使われている…ということも付け加えておきます。これぞ北欧デザイン! ですね。次回は、スウェーデンの室内ドアをご紹介します。ドアを作っている工場は北極圏近く。一体どうしてなのでしょう?…お楽しみに!

文責 金井田晃央 (筆者へのお問い合わせ先: [info@mala-gruppen.com](mailto:info@mala-gruppen.com))

**Innovatio** : イノベーションとは、これまでのもの、仕組みなどに対して、  
 全く新しい考え方や技術を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起すこと。